

褥瘡・皮膚・創傷管理委員会

褥瘡・皮膚・創傷管理委員会委員長 杉田直哉

委員会活動目標

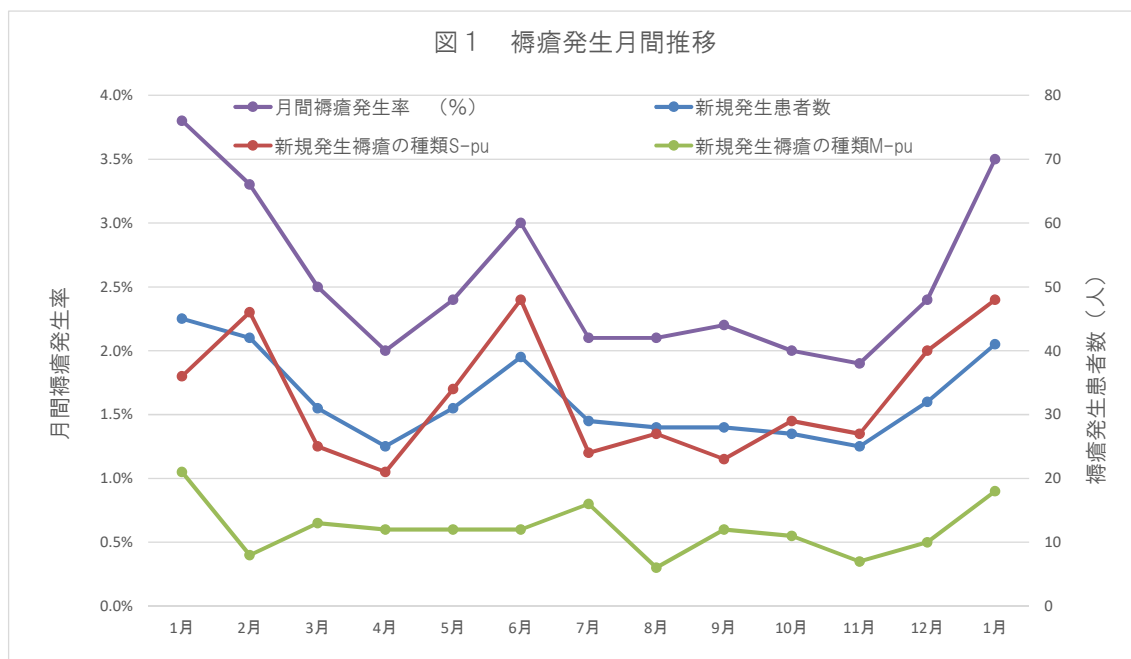
当委員会は 2008 年度に発足し、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、事務、秘書などの多職種で、3 つのワーキンググループ（以下 WG）（Ⅰ.褥瘡対策 WG Ⅱ.創傷ケア WG Ⅲ.ストーマ・排泄ケア WG）の活動を、2020 年度より褥瘡対策 WOC（Wound（創傷）・Ostomy（オストミー）・Continence（失禁）ケア）・WG として統合、効率化しました。Total Quality Control 意識することにより、教育・啓蒙活動など近森会グループ全体のスキンケアレベル向上、病院全体での標準化による安全性の向上や適切なコスト管理を目標に活動しています。

委員会組織

褥瘡対策 WOC・WG が、実際の活動の中核として、褥瘡対策チームを兼ねて月 1 回第 4 金曜日 13：30～14：30 に褥瘡対策委員会を開催し、褥瘡対策や、皮膚損傷に拘わる課題や問題点について、リンクナースとともに、教育、啓蒙、分析、対策実施を行っています。代表者会として、褥瘡・皮膚・創傷管理委員会を隔月で開催しています。

褥瘡・創傷・皮膚管理委員会

5 月をスタート月にして半年区切りで、前期 5～10 月活動期、後期 11～4 月活動完成期、次期への課題とし、前年度後期の実績および今年度前期、後期の 1 年半を意識した運営を心掛けました。本委員会は、TQC 活動により、特に質の向上を目指して活動しています。アウトカムを意識した委員会活動が病院全体の目標となっています。褥瘡発生率 3.0%以下、推定発生率 2.0%未満（一般病院平均 1.2%）の設定を継続しました。



1年間の褥瘡発生月間推移のグラフを示します(図1)。推定褥瘡発生率は2.0%未満を目標にしておりましたが、まだまだ改善点があると考えられました。今後もマスクやNPPVなどによるMDRPUの防止などを目標設定として取り組みを継続します。

褥瘡WOC・WGでの予防ケアの啓蒙活動が再開され、若手を中心に徐々に浸透する兆しが見えてきたと思われます。看護スタッフの減少が問題となっておりますが、改めて標準ケアの定着が、褥瘡予防に関しての今後の課題と考えられます。また、タスクシェアにより看護スタッフだけでなく、病院全体の協力体制により褥瘡予防を進める必要があると思われます

本年度も活動方針『褥瘡発生リスクの共有』をテーマに、シームレスな活動続行を目標としました。予定外の救急入院数や転床数が多く、現場では重点的なケアが必要な項目が多く、褥瘡に対する問題意識、褥瘡発生に対する危機意識、褥瘡予防や治療担当者としての意識など、持続性を持って管理を行うモチベーションが必要と考えられます。